

SSKP ばんび小屋だより No.136

ホームページ <http://nen-net2.com>

2026年度総会と懇親会に19名が参加!!

～ OBクラブとの合同懇親会を楽しみました!～

2026年6月21日、2026年度整肢療護園同窓会総会と、日肢協・療育センターOBクラブとの合同懇親会が、センター本館3階大会議室で開催されました。昨年に引き続き、飲食ありの合同懇親会が開催出来るという事で、併せて19名の皆様に参加して下さいという事が事前に判明しており、幹事一同、楽しみにしておりました。

総会は村上さんの司会で始まり、岩井会長よりの会長退任のご挨拶。「今年度で会長は退任しますが、これからも一人の会員として、同窓会を支えて参ります」との事でした。

続いて議長選出に移り、幹事会推薦の村上さんが承認され、議事が開始されました。

佐々木事務局長の「議決権数の確認」で総会成立が確認。続いて各部の担当者（事務局は佐々木さん、企画部も佐々木さんが代行、情宣部は会報が恒石さん、ネ

ットが村上さん）より、2025年度の各部報告と2026年度の活動方針案が報告。会計報告（決算報告と予算案）が会計・佐々木さんより、会計監査報告が監査・田村さんよりされました。その後、各部報告と活動方針案、決算報告・予算案に対する質疑応答、活動報告と活動方針案、決算報告・予算案に対する採決が行われ、満場一致で承認。これで、予定されていた総会の議事は、滞りなく終了しました。

ここで、センター内の別室で総会を開催されていた『日肢協・療育センターOBクラブ』の皆さんが大会議室に合流。同窓会を含めた全員で「記念撮影」を行いました。

2025年度はOBクラブと総会日程が合わなかった為に合同懇親会は開催する事が出来ませんでしたので、OBクラブの皆様との飲食を伴う「合同懇親会」は、本当に久しぶりの開催となります。「合同懇親会」の為に会場設営が行われ、参加者



同窓会とOBクラブの「合同懇親会」に参加して下さいだった皆さん。



合同懇親会でのスナップ写真。【1 段目】乾杯の音頭を取る北住映二さん。佐々木さん厳選の『まい泉のお弁当』。北原恵美さん。内田二子さん。田村恵一さん。会場全景。【2 段目】田村和子さん。大小島健さん。村上満知子さん。村上祥子さん。市原幸文さん。山崎裕康さん。三浦真二さん。【3 段目】佐々木卓司さん。吉田和男さん。岩井観覧さん。岩井えり子さん。伊藤奈緒美さん。阿部栄子さん。堀江洋子さんが差し入れて下さった、「山形のさくらんぼ」。とても美味しかったです！

全員での合同懇親会が始まりました。

合同懇親会は北住映二OBクラブ会長の「乾杯の音頭」で始まり、佐々木さん厳選の『まい泉のお弁当』などをみんなで美味しく戴きました。お腹が落ち着いた所で、ワイヤレスマイクを回して、全ての参加者の皆様に近況等について話して戴きました。

ここで編集者の私から、読者の皆様への『心よりのお詫び』を申し上げます。私

は同窓会の行事がある場合は、必ず『ICレコーダー』を持参して録音し、後日その録音を聞きながら文字を入力しています。135号でも結構長い原稿を書いて、皆様に読んで頂きました。総会でも持参していたのですが、電池が総会の終了と共に切れてしまい、皆様のメッセージを録音する事が出来ませんでした。大変申し訳ございませんでした。次回からは「控えの電池」を入れておきます！（恒石記）

10月17日の土曜日、センターで、恒例の『オータムフェスティバル』が開催されます！ 同窓会会員の皆様も、是非、ご参加下さい！

2026年10月17日の土曜日の午後1時から午後3時半まで、センター恒例の『オータムフェスティバル』が開催されます。

私ども『整肢療護園同窓会』の幹事会も、『日肢協・療育センターOBクラブ』の皆様も参加予定です。

同窓会会員の皆様も参加されて、懐かしい「整肢療護園」の雰囲気、久し振りに味わってみませんか？お待ちしております。

今年の旅行も『戸山サンライズ』に現地集合・解散 みんなで「楽しい夜」を過ごしましょう！

今年の旅行も、昨年利用した障害者用のホテル『戸山サンライズ』のツインベッドルーム12室（22名分）を確保しました。ここはベッドの高さが床からわずか40cmですので、ほとんどの車椅子利用者にも対応可能です。

ただ、諸経費高騰のため、ホテル料金も改定され、昨年よりも高くなりましたが、皆さんとの集まりを是非とも続けていきたいので、下記の要領で実施することに致します。

「懐かしい思い出話」や、「暮らしの中の耳寄りな話」に盛り上がるような、そんな楽しい時間を過ごす夜を作ることができれば幸いです。

是非とも、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

昨年同様、「宿泊はしないけれど、パーティーだけに参加する」ことも可能です。

参加ご希望の方は、同封の返信葉書でお申込み下さい。

先着順ですのでお早めにお送りください。

多くの皆様のご参加を、お待ちしております。

開催日時：2026年9月19日（土曜日）～9月20日（日曜日）

開催場所：戸山サンライズ（全国障害者総合福祉センター）

東京都新宿区戸山1丁目22番1号 電話：03-3204-3611

アクセス：新宿からタクシー（約2,600円位）

都営大江戸線「若松河田駅」下車、徒歩10分

駐車場：14台が駐車可能（無料）

宿泊受付：9月19日午後3時より

パーティー：9月19日（土曜日）午後6時より、1階会議室

宿泊定員：大人22名

参加費用：宿泊とパーティー：大人1名：11,000円（介助者も同額です。）

：子供1名：6,000円（小学生以下）

小学生以上は大人と同じ料金です。

パーティーのみの参加：大人1名：5,000円

※尚、申込後に参加できなくなった場合には、至急、ご連絡下さい。

もし連絡が当日になった場合はキャンセル料として5,000円が必要となります。

申込方法：同封の返信葉書でお申込み下さい（8月31日必着）。

お問合せ：事務局・佐々木卓司（電話：080-3343-9765）



1956年12月に数名の元園児と当時の職員の方で「整肢療護園同窓会」が創立されて、今年の12月で「創立70周年」を迎える事になります。これまで、多くの諸先輩方や多くの元職員の皆様のお陰で迎える事が出来る70周年。ここで会員の皆様に、改めて「同窓会会則」をお知らせしておきたいと思い、全文を掲載致します。

整肢療護園同窓会会則

第1章 総 則

第1条 本会は整肢療護園同窓会と称し、事務所を心身障害児総合医療療育センター（以下「センター」とする）内におく。

第2条 本会は整肢療護園に在園した者をはじめとする会員が相互に親睦を図り、あわせて障害に関する会員各自の様々な体験、情報を会の財産として共有し、記録、発信し、もって誰もが暮らしやすい社会の創造を願い、その実現に寄与することを目的とする。

第2章 会 員

第3条 本会は次の会員によって構成される。

（1）正会員は、整肢療護園の退園者とする。

（2）賛助会員は、整肢療護園（センター）現・旧職員および本会の主旨に賛同する者とする。

第4条 会員は付則に定める会費を納入する者とする。ただし、経済上その他の理由により、会費を減免することができる。

5条 会員は会との連絡を密にし、住所・姓名等に変更があった際にはそのつど連絡しなければならない。

第3章 役 員

第6条 本会には次の役員をおく。

（1）名誉会長

（2）顧 問

（3）会 長

（4）副会長

（5）書 記

（6）会 計

（7）会計監査

（8）幹 事

第7条 名誉会長にはセンター所長を推薦する。顧問および会計監査は幹事会においてこれを推薦する。

第8条 幹事は総会において会員中より選出される。会長、副会長、書記、会計は幹事会において互選する。

第9条 役員の任期は2年とし、再選は妨げない。

第10条 役員に欠員を生じた際は、幹事会の承認を得て会長これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

第11条 役員の任務は次の通りである。

- (1) 名誉会長および顧問は、必要に応じて本会の各種会議に参加する。
- (2) 会長は会務を統括し、本会を代表する。
- (3) 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代行する。
- (4) 書記は各種会議の書記を務め、議事録を作成する。
- (5) 会計は本会の資産および会計に関する業務を行う。
- (6) 会計監査は本会会計を監査する。
- (7) 幹事は幹事会に出席し、各種事業の企画、実施にあたる。

第4章 機 関

第12条 本会には次の機関をおく。

- (1) 総 会
- (2) 幹事会

第13条 幹事会は総会に次ぐ議決機関で月1回開催し、議決は幹事の過半数をもって成立する。

第14条 幹事会は次の会務を審議する。

- (1) 本会の事業に関する企画。
- (2) 本会予算・決算に関すること。
- (3) 総会提出の報告書および議案の作成。
- (4) 会長以下役員の互選。
- (5) その他、本会の運営に関する諸事項。

第15条 会長は自己の判断で、もしくは幹事の過半数の要請があった時、臨時に幹事会を招集する。

第5章 総 会

第16条 総会は最高の議決機関で、定時年1回会長がこれを招集する。または幹事会および会員の3分の1以上の要求のあった場合は、会長臨時にこれを招集する。

第17条 総会の議決は多数決による。ただし、本会則の改正には出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

第18条 総会の議長および書記は総会においてそのつど推薦する。

第19条 総会は次の事項を審議決定する。

- (1) 予算・決算
- (2) 報告および事業案
- (3) 幹事の選出
- (4) 本会則の改正
- (5) その他の重要事項

第6章 事 業

第20条 本会の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 親睦会
- (3) センター利用者との交流。
- (4) その他、本会の目的達成のため必要と認められること。

第7章 会 計

第21条 本会の経費は、会費、寄付金、その他をもって充当する。

第22条 本会計の会計年度は4月1日から翌年3月末日までとする。

第23条 会計は年度末毎に収支決算報告書を作成し、会計監査を受けなければならない。

第8章 付 則

- 1、本会会務処理のため、幹事会において細則を定めることができる。
- 2、各種の会における経費はそのつど出席者より徴収する。
- 3、総会において承認された事業・会計報告を、年1回センター所長に報告する。
- 4、年会費は2,000円とする。
- 5、本会則は昭和35年7月31日より実施する。

平成12年5月28日 一部改定

センターよりの「援助金」と、「同窓会会費」について

毎年の「会計報告」にも記載されておりますが、整肢療護園同窓会は、創立当初より、整肢療護園よりの「援助金」を頂いております。

創立18年目までは「毎年7万5千円」、創立19年目（小池文英園長の時代）からは倍増して、「年間15万円」を頂いております。

創立18年目までの合計は、「135万円」。創立19年目から2026年度末までの合計は、「780万円」。その合計金額は、何と「915万円」という高額になっております。

もしも整肢療護園からの「援助金」を頂けていなかったら、とっくの昔に整肢療護園同窓会は消滅していたと思います。

昨年度の収入の内、

「会費収入」が、14万8000円（「会員数」は214名、会費は年2000円。）

「援助金」が、15万円

「寄付金」が、7万2000円

上記の「金額」を、正会員、賛助会員の皆様は、どの様に感じられますでしょうか？

これからの「整肢療護園同窓会の健全運営の為」に、一人でも多くの会員の皆様からの会費納入を、よろしくお願い致します。

故栗原敏総婦長と『第1回ねむの木賞』

2026年7月下旬、療育センターの総婦長を永らく務めておられた栗原敏さん（2000年9月にご逝去）の甥御さんである栗原晋二さんより、お葉書が届きました

「私のお願いは、栗原敏さんが『第1回ねむの木賞』を戴いた時（1967年11月6日）の、記録（写真等）が入手出来ればとのお願いです。今年の9月に「法事（27回忌）」が出来ればと考えています」との事でした。

『ねむの木賞』と『高木賞』は、整肢療護園の経営母体である日本肢体不自由児協会が、療育などの分野で優れた働きをされた方を表彰する制度ですので、「もしかしたら画像データが保存してあるのでは？」と、アポも取らずに日本肢体不自由児協会にお邪魔しました。

女性職員の方に「今回の経緯」をお伝えしていると、奥におられた男性職員の方が「外付けHDDを繋いだノートパソコン」を持って来られて、「第1回ねむの木賞の画像データは保存してあります」との、嬉しい御言葉が！実際に『第1回ねむの木賞』と『第1回高木賞』の画像データ11枚が残っていて、私の「USBメモリ」にコピーさせて頂きました。

その日の午後、栗原晋二さんにお電話をして、翌日の午前10時にあきる野市のご自宅に伺うお約束をし、翌日に実際にお邪魔して、スマホのカメラで撮影した画像データを見て頂きました。『第1回ねむの木賞』を受賞された看護婦さんは4名で、他の3名の方は全て賞状を授与されているシーンが撮影されているのですが、誠に残念ながら「栗原敏さんが賞状を授与されているシーン」だけが撮影されていませんでした。

しかし『第1回ねむの木賞』の式場で、栗原敏さんが写っている画像データは4点ほどありましたので、全て「エプソンのA4判の写真用紙に『キレイモード』で印刷」をして、8月中には栗原さんにお届けしたいと考えております。（記：恒石浩志）



『第1回ねむの木賞』の栗原敏さん①（白のスーツ）。



『第1回ねむの木賞』の栗原敏さん②（白のスーツ）。



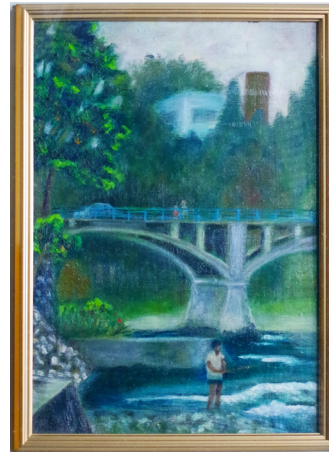
『第1回ねむの木賞』の栗原敏さん③（白のスーツ）。



『第1回ねむの木賞』の栗原敏さん④（白のスーツ）。



戦時中、『沼津の海軍病院』時代の栗原敏さん（中央）。



栗原敏さんが描かれた、地元（「軍道」）の橋と川。

故吉田美恵さんの短歌集『老の館』のご紹介

2017年12月2日に103歳で天に召された故吉田美恵さんが、2012年3月に、短歌集『老の館（おいのやかた）』を出版され（A5判縦組み、本文138ページ、400部）、私もお手伝いさせて戴きました。

美恵さんは『あとがき』の中で、「同窓会の「書家」倉持美智子さんが表紙を飾ってくださって華をそえていただいた事も、ありがたく思っています」とお書きになっておられます。

整肢療護園同窓会関係の方は、当時、美恵さんから送られてきた方もおられるかとは思いますが、それ以外の『ばんび小屋だより』の読者の方はご存知ないと考えまして、何号かに分けてご紹介したいと考えております。（記：恒石浩志）

平成六年 病 院

屈託なき笑顔の若き看護婦ら何思ひつ
つ老を看とれる

夜の廊下襦袢交換車通りしか消毒液の
匂ひながれ来

朝床に覚めゐて思ひ屈しゐるわれをま
ことのわれと思ふ

山峽は水田なるらし
目の前の木々の間に入
日かがよふ

たは易くすぎゆく時
か朝餉終へいくばくも
なきに配膳車の音

病院の屋根に鳥の住
みをりて窓よぎりゆく
朝な夕なに

十五年老の館に住み
をれば勤の如く食堂に
行く

相共に八十歳にて病
みし友中の一人は遂に
みまかる

蛸の鳴きしく庭の草引けばまだ温き土
の香のする

花すぎし月下美人あはれ手花火の雫の
如く葉より垂れをり

山峽の水田をおほふ川霧が木々の梢に
あはあはと見ゆ

眞向の軒場に番の鳩ゐしが夕べに見れ
ば鳥がおそふ

人気なき病院の廊下歩めれば窓より椎



の花の香のする

八十歳ともなればせんないささかの
編物にても肩こり痛む

起き出でて歩行装具をつけをれば自ら
心定まりてをり

順調に一日が過ぎしと思ふ夜半睡眠剤
を二度飲む不思議

われとわが躰に目覚め起き出でて冷房
付けし立秋の午後

老齢は吾等を不意に捉ふるとゲーテは
言へり身に沁み肯ふ

平成七年 夕 霧

アンデルセンの絵なき絵本を読みをれ
ば月昇り来る庭木の梢

パレットも画架もそのまま片づけず狭
き部屋中避けつつ歩む

屋上に立てば四方の山峽より霧立ちて
来て星見えなくなる

木星の下に三日月金星と等間隔に傾き
ゆけり

増築の為に伐られし杉木立切株となり
白々並ぶ

つやつやと稔る形よき栗の実に拾ひし
喜び伝はりて来ぬ

還暦をすぎて始めし油絵は巧くもなら
ず十五年経つ

食堂の窓より下を見てをれば野猿の群
が木の枝渡る

この秋は生年ならんをちこちに折れん
ばかりに柿の実赤し

テニスコートの辺の小径冬の日龍胆
の花かたまり咲けり

友人の届けてくれし花梨一つわが部屋
中に日すがら匂ふ

五年間病に耐へて来し人の力盡きたる
棺見送る

病室の前を朝夕試歩せしが訪はざりし
こと今にし悔む

何となき気配に見れば五位鶯が側溝の
中歩みてゐたり

夕霧の漂ふ峽を白鷺の群連りて飛び行
くが見ゆ

悉く枝を伐られし半纏木朝霧の中に
黒々と浮ぶ

葉の落ちし樗並木にあらはにて梢の寄
木青々と見ゆ

袖翻し琵琶弾き鳴らし菩薩らは釈迦入
寂を歡び迎ふ（京都にて）

冬枯れし杉の梢を吹く風に限りなき花
粉飛びてゆくらん

雪の上僅かに見ゆる葉牡丹に鶉の群集
り来る

十階の食堂より見る山脈は朝霧流れ墨
絵の如し

十日程ホスピスに在し淡々と思ひ煩ふ
など言ひてみまかる（小羊学園長）

目の前の半纏木の節くれし枝先にはや
木の芽出てをり

春の嵐過ぎたる後の杉山は花実落して
静もりてをり

昨夜降りし雨に濡れたるテニスコート
白鵲領が佇みてをり

一日終へ装具外して床に就く安らぎの
なか幽かなる不安

かつがつに萌え出でて来し庭芝に椋鳥
の群餌を漁りをり

見はるかす上総の山の朝霧は刻々と変
り見れども飽かず

優しとも厳しきさまにうつろひて霧流
れゆく上総の山々

雨晴れし近くの森に久々に鶯の鳴く声
の聞こゆる

窓下の雑木林のひとつところ薄紫の桐の
花咲く

十階の食堂楽しわれの目の高さに鳶が
輪を描き飛ぶ

雲間より漏れくる日射山裾の一かたま
りの叢を照らす

梅雨曇る窓辺に居れば鶯の近く鳴く声
日すがら聞こゆ

托卵を終へたるならん杜鵑鳴かずなり
たり昨日も今日も

薬用に十薬を摘む人のゐてエレベータ
ーの中おりふし匂ふ

愉快犯といふしわざらしポストにて表
紙焼かれし書類届きぬ

いささかの気温の変化に体調の動揺せ
るをもてあましをり

新聞の死亡通知を読みをれば老衰とあ
りわれの齢にして

巢立ちせる幼鳥らしき白鷺が木々の梢
を渡りゆく見ゆ

部屋内の風通しよき居所を求めて坐る
猫の如くに

夏風邪の癒えしと思ふこの朝窓を開く
れば蟬の声する

砂漠行く獣にあればいち早く餌食とな
らん足萎えのわれ

平成八年 秋彼岸

秋彼岸近き夕日の残照がわが部屋内に
入りてかがよふ

本箱も襖も壁も悉く茜に染めて日は入
らんとす

いち早く櫓の梢色づきてをちこちの山
秋となりたり

忘れみし生徒の日々の思はるる母校の
記念誌送られしより

十年前ワイキキに見しきそり座の垂直
なりしと思ひ出づ（ハワイにて）

倒れたる友の植ゑみし菊の花咲きぬと
届けくれし人あり

祭日の踊はあはれ漂へり佐渡のおけさ
も風の盆にも

食堂の窓より見ゆる校庭に影長く引き

生徒等走る

今朝もまた事なく覚めて常のごと床の
上にて体操をする

エレベーターに乗り合ふ人の決りゐて
わが遅れしに入り来るをかし

朝ごとに何かなすこと忘れをりかくて
老化は進みゆくらし

老人の常と思へど身近なる人の呆けゆ
く見るは侘しき

見下せばテニスコートの風紋がインカ
の地上絵の如くに見ゆる

前山に櫓の巨木ありしかどいつしか伐
られあとかたもなし

目覚めよき朝は心はづめれどつづまる
ところ無為に終れり

水清きこの山里のわが宿に長寿の泉湧
きて人汲む

朝餉終へいくばくもなく寝不足の頭の
重く食堂に行く

暖かき窓辺に立てば前庭に水仙あまた
芽吹きてゐたり

咲き終へしシクラメンの花摘みとれば
新しき苔次々と立つ

相次ぎて二人の友を失へど久しく会は
ねば実感のなく

今年限り年賀失礼と刷りありし葉書の
宛名絶筆となる

引き抜きし葉牡丹の花山積みし園丁の
トラック窓外をゆく

置時計逆さに置きて幾日経し戻せば変
らず時を刻めり

雨晴れし朝校庭の水溜それぞれ雲を写
してゐたり

霧深き山峽なれば口惜しき百武彗星遂
に見出でず

見はるかす野山の緑おもむろに濃くな
りてゆく春寒けれど

野に山に変らず緑萌え立てど眺むる人

のうつろひてゆく

現なき妻いたはりて食堂に連れ来るひとの瞳優しき

健康を維持せん為と朝々にわが窓外を歩く人あり

スイートピー描きてをればをりをりの風に仄かに匂ふことあり

亡き友が育てしといふ杜若その娘土産に携へて来ぬ

夏至近き梅雨の晴間の黄昏の長きに散歩の人影続く

来し方も先も思はずなすこともなさず一日がただに過ぎゆく

血圧の高くなりしや次々と思ひ立つまま片付けをする

農薬の撒布を告ぐる広報車梅雨曇る朝峽に響かふ

大雨の止みたる宵の窓近く蛙の声を久々に聞く

椋鳥の群の去りたる庭内に雀の飛ぶが目立ちてきたる

年々に初日の見ゆる辺りより夏の満月昇り来りぬ

玉蜀黍茄子など野菜誂へて描かざるままに萎へてしまへり

病室の窓に見出でし木星がいつしか底を越えて輝く

白鷺の通へる空の道ありて同じ梢を連り渡る

姪よりの転居通知に夫の名の記載のなきを訝しく思ふ

平成九年 満天星

暑き日の漸く過ぎしと思ひしに満天星の葉の色づきそめぬ

台風の過ぎたる夜半の空澄みてはやオリオンの昇りてをりぬ

もの動く気配に見れば白き猫辺り窺ひつつ通りすぐ

庭の菊挿したるままに幾日経し水替へもせず枯るるにまかせ

台風に折れたる庭の柘榴の実絵にせよとあまた携へくれぬ

除草機の朝よりしきり響きをりゲートボールのグラウンド作る

とりどりに枝さしかはす櫟並木裸木となりて冬近づきぬ

烈しかりし嵐に木の葉散り果てて校庭に遊ぶ子等よく見ゆる

昨日の雨晴れたる朝の水溜輝く見れば小鳥水浴ぶ

幼顔未だ残ると人の言ふ未婚に老いし故にかあらん

この年も恙なくして庭先の木々の間に初日のぼり来

起き出でて同じ仕事を繰り返し同じ時刻に食堂に行く

起き出でてカーテン開くれば朝焼の空あり善しと思ひ眺むる

小雨降る節分の朝ゆくりなく亡母の誕生日なりしを思ふ

雨止みし節分の宵福豆を小鳥等のため庭にまき置く

舗装路を濡らししのみの雨晴れて冬の朝の日の暖き

食堂の窓より見ゆる校庭の霜眞白なり踏み見て見たしも

放射冷却厳しき故か明方に肩寒々と目覚めてゐたり

底冷えの厳しきに覚め窓見れば二十三日の月の昇り来

平均寿命遂に過ぎしと思ひつつ現況届に捺印をする

来年度予算通過を聞き乍ら特別給付金の申請をする

終末の事決め置かんと思へども気分よき日はその気にならず

換気せんと窓を開くれば植込のつつじ
の下の鵜飛び立つ

部分蝕の翳りの中に校庭の子等常の如
動きてゐたり

太古には如何に見えけんヘール・ボッ
クすい星都市の明りに白々と浮く

てんぐ巢病にいためられたる校庭の桜
咲かぬまま青葉となりぬ

病む妻を日光浴に伴へる夫の歩調ゆる
やかにして

朝如に決りし枝にとまりぬし鴉いつし
か見えざなりたり

源氏蛭飛ぶ所あるらしと弾む声するエ
レベーターの中

窓辺にて咲かせんとせし朝顔の花芽つ
ぎつぎ末枯れゆけり

朝の雨小止みとなりて日の射せば俄に
椎の花の香の立つ

寒き日の続きてぬしが椎の花の香に立
つ頃となりてをりたり

新聞を読む事すらも疎ましく老いはい
よいよ募りゆくらし

うつ病の兆ならんかこのままに消えて
もよしと思ふときあり

激しかりし台風去りし夜に入りて羽蟻
があまた部屋内を這ふ

生徒等が上りし後のプールの面風に逆
ひ波立ちてをり

歯の痛み漸く癒えしと思へれば腰のう
づきの起りてゐたり

補装具を着けつつ思ふいつしかは自ら
なし得ぬ時来らんと

たは易く時は過ぎゆく同じ事繰り返す
のみのひと日なれども

冷房を好まぬわれは開け放ちひたすら
風の通路を探す

かつがつに咲きたる鉢の朝顔のはやい
くつかは種となりをり

部屋内に一匹の蠅潜みゐて夜になり来
れば目の前を飛ぶ

とりたててなし遂げし事なけれども一
日終れば心やすらふ

蟬ひとと十階の食堂の窓につき今しも
鳴かんと羽をふるはす

平成十年 半纏木

爽かに覚めし朝は慶きことのあるかの
ごとく窓開け放つ

かかる技いつまでせねばならぬかと補
装具付けつつ思ふ時あり

花過ぎし芙蓉は散りて根元にははや葉
牡丹の苗植ゑらるる

日本南瓜まさかり南瓜はからずもテレ
ビに見いで往時を偲ぶ

山々の靄薄れゆき冬空の上弦の月輝き
増せり

窓外の黄に末枯れし半纏木一ところ明
し朝日を受けて

窓外に繁りてをりし半纏木いつしか刈
られ裸木が立つ

健康診断書異常なしと記しあれどこの
気だるさは何処よりくる

窓外に放してやりしかめ虫の匂残れり
夜更けの部屋に

何げなく窓を見やれば中空に残月白く
かかりてゐたり

一ところ散り残りたる葉のありて夕日
に紅く輝きてをり

南方の島の蛭の美しさ語りし人居きテ
レビ見て思ふ

朝焼の美しかりし日の出前空唐突に雲
に覆はる

初日の出待ちつつをれば唐突に雲流れ
来て曇となれり

目覚めたる朝は小雨にありしかど予報
の如く大雪となる

朝よりの雪止むとなく降りしきり葉牡

丹も水仙も見えずなりたり

雪の朝花壇見まはりに行きし友転びて
意識未だ戻らず

何となく心楽しく待ちてをり獅子座の
流星群現るること

杉花粉飛ぶ日近づく山々の木立斑に色
づきてをり

気温高き日は暖房の弱くしてうす寒き
まま一日を過す

暖冬の故にかあらん葉の伸びし水仙花
壇にひしめきてをり

花過ぎし葉のごと長くしなだれて蒼を
持たず水仙育つ

昨夜の雪融けたる道の砂利の上椋鳥一
羽佇みてをり

何となく気だるきことの多くして身辺
の些事撈り難し

いち早く土筆摘みきし人のゐてエレベ
ーターの中に落ちをり

園丁の摘み残したる縁石の間に碧き小
花咲きをり

小雨降る砂利道の上椋鳥が水仙の蒼ひ
きずりてゆく

友の怪我確めたしと思ひつつかなはぬ
故にもどかしく思ふ

亡き母が育てしといふかきつばた娘が
携へて今年も来る

鶯の戻り来るや小雨降る森の辺りにし
きりに鳴ける

日毎見る山峽の霧今朝もまた流るるが
見ゆ幾重にも立ち

遠山の峽は雲間と見るうちにわが庭先
の明るくなりつ

雨晴るるきざしならんか雀らが道のあ
たりを低く飛び交ふ

わが窓の庇の上に巢のありて数羽の雀
しばしばよぎる

生徒等の去りたる後のプールの面水青

あをと小波の立つ

かの丘に鶯未だ棲みをりて托卵のため
時鳥鳴く

無口なる友なりしかどたくましく生き
つぎ遂に病に仆る

窓外の小園巡らす芙蓉の花朝露にぬれ
一つずつ咲く

梅雨明けの間近かならんか入日さす木
立の中に蝸の鳴く

梅雨明けを告ぐるが如く油蟬黄昏のわ
が窓に来て鳴く

埒もなき事と思へど遺言書を作りて己
が我通さんとする

小園の山桃あまた実れれど採る人もな
く根元にて朽つ

十階の窓より見ゆる山並は九十九谷の
山峽に続く

朝食を終へて戻れば薬飲む前に暫くベ
ッドに憩ふ

梅雨明けしばかりと思ひし小園の雑木
林はすでに秋づく

平成十一年 草紅葉

台風の過ぎたる朝の半纏木残るその葉
は襤褸の如し

友人の届けてくれし金木犀今朝より匂
ひ始めしといふ

台風のかすめて行きし夜半覚めて荒ぶ
る音を小気味よく聞く

爽かに目覚めたりしがひすがらに心は
ずまずうつうつとして

山茶花の今朝より開き始めしとわが逢
ふ人等こもごもに言ふ

ひとたびは裸木となりし校庭の桜の梢
青く萌えをり

夕餉終へ窓を見やれば山脈を一かたま
りの鳥渡りゆく

鳶一羽木立を巡り高く低く獲物をねら
ひながら飛びをり

雨晴れて朝の四方の山々の杉つややけ
く雑木鮮か

草紅葉踏みしめ踏みしめ白き猫雑木林
に入りてゆきたり

漸くに色づきたりし銀杏の葉たちまち
散りて裸木となる

何かよき事ある如き心地して元日の朝
の茜を見をり

小園の四照花の木紅葉せしまに残り
て歳晩となる

読みかけし本閉ぢ窓を見上ぐれば思ひ
もかけず雪白く降る

しんしんと降りぬし雪のはかなくも二
時間程にて消えてしまひぬ

建物を照らす朝日の反射にて前庭しば
し茜に染まる

小園の木立おぼろに見えそめぬ四方の
霧は未だ濃けれど

久々の雨に朝霧湧き立ちてわが窓辺ま
で届きてゐたり

疲れたる日は寝台に寄り伏して視ると
しもなくテレビ見てをり

校庭の木立を洩るる朝の日がプールの
面にひととき映ゆる

カーテンを開くれば前の草生より猫走
りきてわが顔見上ぐ

籠りゐて夕餉とりつつ気づきたり壁の
額ぶち傾きゐるを

構内の桜を見んと屋上を腰の痛みに耐
へつつ歩む

隣室のテレビ聞こえぬ今日ひと日心落
ちつかずわれはゐたりき

花見の宴ハモニカを吹く人のゐて幼か
りし日思ひ出でたり

老齢に馴れ来しならん日常の些事少し
ずつ片付きてゆく

十階の窓より見ゆる山々の雑木林の緑
日に濃し

食堂の窓より見下す前庭の四照花の花
開き始めたり

いつしかにわが耳遠くなりしことテレ
ビを見つつ密かに思ふ

ゲートボールを楽しむ人のなくなりて
草生はつばな風にそよげり

一筋の飛行機雲にほの紅く夕日かがよ
ひ雲間に浮かぶ

十葉の花咲き始むと足弱きわれに摘み
来てくれし人あり

あしなえにありたりしかど皆人が労り
くれて楽しく老いぬ

花すでに終ると見えし四照花梅雨寒に
入り再び白し

梅雨晴の朝の狭田小型機が農薬撒きつ
つ巡り行きたり

小園を巡らす芙蓉の生垣に花一つ見ゆ
朝霧の中

かつてわが泊りし宿の崖の上に羚羊を
見しこと未だ忘れず（崖の湯にて）

前庭にしつらへられし滝の上烏等の来
て水浴びしをり

地のほてり残れる庭の椅子に寄り仕掛
火花をながく見てをり

換気せんと窓を開くれば漸くに涼風立
ちて蛹のなく

前庭の桜並木の根元には蟬の穴あまた
つづきて見ゆる

二十年老の館に住みをれば見馴れし顔
の少くなれり

吉田美恵さんの「短歌」の数々、ばん
び小屋だより136号では、ここまでのご
紹介になります。

次回をお楽しみに！

皆さんの『お便り』から

記録（写真等）が入手出来ればと

栗原晋二さん（あきる野市）

私は、皆様方に変にお世話になった栗原敏さんの出家に住んでいます。今年も「ばんび小屋だより」135号を戴きました。私のお願いは、栗原敏さんが『第1回ねむの木賞』を戴いた時の、宮内庁ご接見（御所）の記録（写真等）が入手出来ればとのお願いです。手元には「ばんび小屋だより」56号（敏さんの追悼記事が掲載された号）を所有しています。

〈追記〉今年の9月に「法事（27回忌）」が出来ればと考えています。

肺炎になってしまい

酒井重行さん（成田市）

肺炎になってしまい、すっかり体調を崩してしまいました。

これからも会報を送って下さい

青木藤夫さん（足立区）

同窓会に昔は行っていたけど、最近行っていないので良く分からないのですが、会報を送って下さるので助かります。これからも会報を送って下さい。

役員の皆様、ご苦労様です

大内光子さん（仙台市）

役員の皆様、ご苦労様です。

幹事さん達、本当に御苦労様です

小原昭子さん（船橋市）

総会に出席出来るかどうかまだ分かりませんので、委任状を提出します。幹事さん達、本当に御苦労様です。自分自身も何をするにもすぐに疲れてしまい、休み休み、家の中の事をしています。80歳を過ぎてから、急に体力がなくなって来た様に思います。「頑張るしかないかなあ」と、思っています。

皆さん、お元気でお過ごし下さい

谷吉弘次さん（文京区）

私も90歳になり、ガンのオペの後、6年

間も生き長らえています。毎日あちこちが痛みますが、それでも頑張っています。同窓会も幹事の皆さんのお力で、良く続いています。会報で見る顔も知っている人が少なくなりましたが、懐かしい人がいます。『カメの子会』の仲間もみんな元気で、それぞれに生活しています。

会報で吉田春美さんのご逝去を知り

（お名前不明の元桐が丘職員の方）

会報で吉田春美さんのご逝去を知りました。気さくな方で、新人の私を暖かく迎えて指導して下さいました。段々と知っている方が居なくなって、淋しい限りです。

SSKPばんび小屋だよりを楽しみに

坪井順子さん（横須賀市）

会報「ばんび小屋だより」を、楽しみに拝読しています。訃報の記事に心痛みます。私ももう少し、色々頑張りたいと思います。

3月に新型コロナウイルスにかかり

吉田和弘さん（諏訪市）

会報135号が4月28日に届きました。2026年のお祝いを、誌上で申し上げます。僕も3月に新型コロナウイルスにかかって、1か月くらい部屋から出られませんでした。でも、4月には近くの土手まで桜の花見に行きました。今年も一年、よろしく願います。

齢を重ねるのも、たまには良い事も

恒石浩志さん（杉並区）

最近、テレビ等で「自転車の青切符取締り」が始まったという報道があります。信号無視、スマホを見ながらの走行、雨の日の傘を差しながらの走行、二人乗り等々、結構な数の検挙者が出ている様です。

私は基本的に車で移動する事が多いのですが、たまには自転車で移動する事があまして、先日、片側2車線の「井の頭通」の車道の左端を走ってみたら、自動車が結構

なスピードで私ギリギリを走って来て、正直「身の危険」を感じました。そこで「自転車で歩道の通行は許されるのか？」について、高井戸警察に電話を掛けて聞きました。「年齢はお幾つですか？」と聞かれたので、

「74歳です」と答えました。すると、「70歳以上の方は、歩行者の妨げにしなければ、自転車での歩道通行が可能です」との回答を貰いました。「齢を重ねる」のも、たまには良い事もあるようです。

新しい「同窓会会員」をご紹介します！

整肢療護園同窓会には「正会員」と「賛助会員」の2種類の「会員制度」（年会費は共に2,000円）があります。正会員は整肢療護園退園者、賛助会員は退園者以外で、同窓会の活動に関心を持たれたり、理解を示して下さる方ならば、どなたでも入会できます。

あなたの周囲に、まだ整肢療護園同窓会を知らない、会員となっておられない整肢療護園退園者、整肢療護園元職員、同窓会の活動に関心を持たれたり、理解を示して下さる方はおられますか？もしもおられましたら、「同窓会事務局」までご一報ください。

ご連絡・お問い合わせは、事務局及び会計・佐々木卓司までお願い致します。

〒261-0013 千葉県千葉市美浜区打瀬1-2-3 セントラルパークウエストB-403

携帯電話 080-3343-9765、自宅電話 043-272-4100 (Fax兼用)

電子メールアドレス xjcn3962@yahoo.co.jp

「同窓会会費」の振込み口座について

同窓会会費は、「正会員」、「賛助会員」共に年間2,000円、振込み口座は以下の通りです。

▽郵便振替口座 名称：整肢療護園同窓会 郵便振替口座番号：00160-7-8438

▽銀行口座 名称：整肢療護園同窓会 三菱UFJ銀行 三田支店 普通預金：1039229

正会員・賛助会員の皆様への「大切なお願い」

整肢療護園同窓会の運営（会報の発行、活動）は、「会員の皆様からの会費」によって支えられております。どうか健全な会の運営のため、会費の納入にご協力ください。

どうぞよろしくお願い致します！

編集後記

『ばんび小屋だより』136号をお届けします。今号の記事の内容は、いかがだったでしょうか？事務局のメールアドレスは xjcn3962@yahoo.co.jp です。パソコンやスマホで電子メールをやられている皆様は、是非とも『お便りメール』や『会報の記事に対する感想メール』の送信をお願い致します。

皆様の原稿がありませんと、会報は発行できませんので。どうぞよろしくお願い致します。

今回もご寄稿頂いた皆様のお陰を持ちまして、無事に会報『ばんび小屋だより』を発行する事が出来ました。137号以降も「皆様のご寄稿」をよろしくお願い致します。情宣部よりの「ご寄稿依頼のお願い文書」が届きましたら、「ハイ、喜んで！」と快諾をお願い致します。

これからも、『整肢療護園同窓会』および会報『ばんび小屋だより』を、末永くご支援・お見守りくださいますように、お願いいたします！
(情宣部・恒石浩志)